

## ガチ！生物多様性塾 by 昆虫食倶楽部

\*戸田三津夫（静岡大学・昆虫食倶楽部）

夏目恵介（昆虫食倶楽部）

### 1. ガチ！生物多様性塾

昆虫食倶楽部は、浜松市にて身近な自然の中からおいしく食べられる生き物を参加者と一緒に捕まえ、みんなで料理して、食べるイベント【とって食べる】の開催や、佐鳴湖でのミシシippアカミミガメ駆除を中心にした外来種対策活動を行ってきた。2021年からは中高生対象の生物多様性を体験しながら学ぶ講座【ガチ！生物多様性塾】に取り組んでいる。この講座が目指しているものや、2年間取り組んできて見えてきた課題などについて報告する。

### 2. プログラムとねらい

2022年プログラムは...▶5/29 講演会「トキやパンダを絶滅から守るべきか」（広島大：山田先生）、▶6/12 外来種フィールドワーク（和亀保護の会：西堀氏）、夜の水田観察会（小杉正則氏）、▶7/24 里山フィールドワーク（愛知学院大：富田先生）、夜の昆虫観察会（磐田市竜洋昆虫自然観察公園：こんちゅうタン）、▶8/14 川遊びフィールドワーク（浜松魚部：山内氏、静岡大：水谷先生）、▶9/25 生物多様性まとめの講義&10/2 土壌生物フィールドワーク（ふじのくに地球環境史ミュージアム：岸本先生）、▶10/16.30 プレゼン準備会、▶11/6 受講生によるプレゼン大会、▶1/7.8 アイガモの標本を作ってみよう（なにわホネホネ団：西澤団長）、1/7 ガチ塾を題材に、主体的・探究的学びについて考えよう（浅川俊彦氏）。

塾のウリは、①講義やフィールドワーク（インプット）だけでなく、プレゼンテーション（アウトプット）までやる、②グループディスカッション（対話）を重視する、③各分野の専門家やさまざまな大人たちと出会える場になっている、の3点。

生物多様性の保全をめぐる問題の多くは、たとえば、どの外来種をどれくらい駆除するのかなど、

「唯一の正解」がないことが多く、また人の生活と関わる（例：環境負荷が高い農法であることは知っているが、イマココの食糧が必要）中で利害が対立することも多い。解決へ向かうには、自分の意見をはっきりと述べ、他者の意見にも耳を傾け、対話を重ねながら粘り強く着地点を見出していくしかない。そのスキルの習得を意図してグループディスカッションやプレゼンテーションを重要視している。また、一線で活躍する講師が参加することで、専門知識や経験の教授だけでなく、様々な生き方をしていく多様な大人と出会える場になり、自分の将来の生き方をイメージする手助けになるはずだ。

この講座の受講生の中から、将来、生物多様性の考え方を理解した上で、その保全に向けて行動できる人が出てくることを期待している。

### 3. 結果・考察

2021年、2022年と大きな事故なく開催することが出来た。参加者からの講座に対する評価はとても高かったが、課題も多い。主たといえば、①受講生とのコミュニケーション、ストレスなく思う存分対話が出来ると雰囲気づくり、②受講生の主体性を最大限尊重しつつ、より深い学びになるようなプログラムづくり、③事業を継続していくための予算やスタッフの確保、の3点が挙げられる。

課題をひとつずつ解決していきながら、よりよい講座になるように試行錯誤を続けていく。

